



平成30年西日本豪雨災害で被災した

岡山県立倉敷まきび支援学校 2018年7月15日 湯井撮影

令和6年 能登半島地震から見る 特別支援学校の防災減災

(一社)福祉防災コミュニティ協会
理事 兼 福祉防災上級コーチ 湯井恵美子

令和6年 能登半島地震

2024年1月1日 16時10分頃 M7.6

地震、津波による死者240名

(うち災害関連死15名・安否不明者15名 (2月1日現在))

能登半島地震 亡くなった人の死因 (暫定値) 1月30日時点

※その他の市町村：穴水町・能登町・七尾市・羽咋市・志賀町

死因	輪島市	珠洲市	その他	計
圧死	32	40	20	92
窒息・呼吸不全	20	25	4	49
低体温症・凍死	15	15	2	32
外傷性ショックなど	12	13	3	28
焼死	3	0	0	3
その他	4	2	0	6
不詳	12	0	0	12
計	98	95	29	222

令和6年能登半島地震 特別支援学校の対応

石川県立七尾特別支援学校（珠洲・輪島分校） 1月26日から本校のみ学校再開、分校は避難所 ※学校ホームページ（すみれNews）と 学校関係者からのヒアリングより

七尾特別支援学校の被災状況

投稿日時：01/10 管理者

- ・児童生徒、職員全員の安否確認済み。大きなけが人などはなし。
- ・電力供給あり。断水が継続している。
- ・建物に大きな損壊なし。建物の安全確認済みである。敷地内のいたる所に地割れや沈下がある。学校裏側の擁壁が崩れ、学校裏側の損傷が大きく1m～3m程度沈下している。
- ・校舎内の復旧作業は終了し、学校機能の回復を図っている。



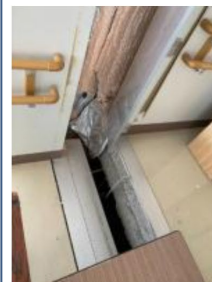
<輪島分校>

- ・児童生徒、職員全員の安否確認済み。大きなけが人等はなし。（1月10日夜、確認完了）
- ・他の児童生徒、職員に大きなけが人等はなし。
- ・施設の一部は避難所として使用。電力会社の支援により電力供給あり。断水が継続している。
- ・建物に大きな損壊なし。敷地内のいたる所に地割れあり。
- ・被災した職員多数のため、校舎内の復旧作業、学校機能の回復が滞っている。



<珠洲分校>

- ・児童生徒、職員全員の安否確認済み。大きなけが人等はなし。
- ・施設の一部は避難所として使用。電力会社の支援により10日より電力供給あり。断水が継続している。
- ・教室等の主たる建物の地盤が20～30cm程度沈下している。このため、渡り廊下やエレベーターホール等との接合部が断裂し、隙間ができています。現在、安全確認中。
- ・被災した職員多数のため、校舎内の復旧作業、学校機能の回復が滞っている。



石川県立七尾特別支援学校本校の被害



なぜ、被害が厳しいのか

- 地震の揺れの強さ、耐震性の弱さ、道路ネットワークの寸断
- ライフラインの停止、超高齢社会、寒冷期、医療・福祉の脆弱性



- 直接死（住宅の下敷き）が多い
- 過酷な避難生活（トイレ、薬、ベッド、食事）
- 栄養不足、体力低下により感染症、循環器系疾患がまん延→関連死が危惧される

避難とは、

個別ひなん
計画

避難行動

安全な場所への移動行動

+

避難生活

安全な場所での暮らしの再建

防災学習
の目標

名前

年齢

性別

お困りごと
病気・障がい・経済状
況・家庭状況など日常
生活で困っていること

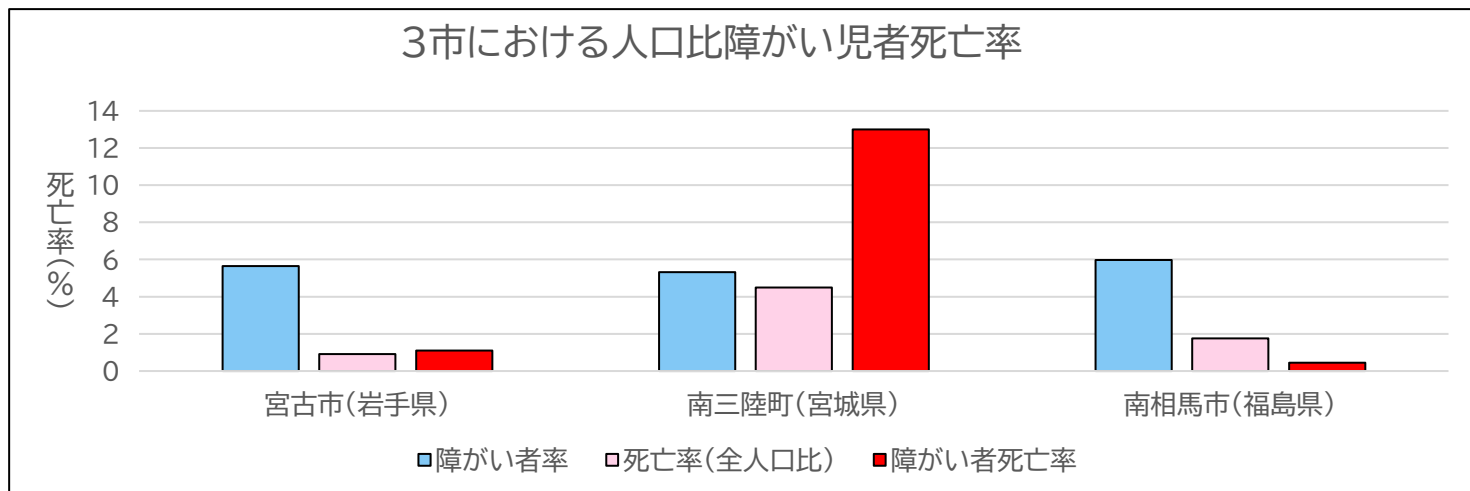
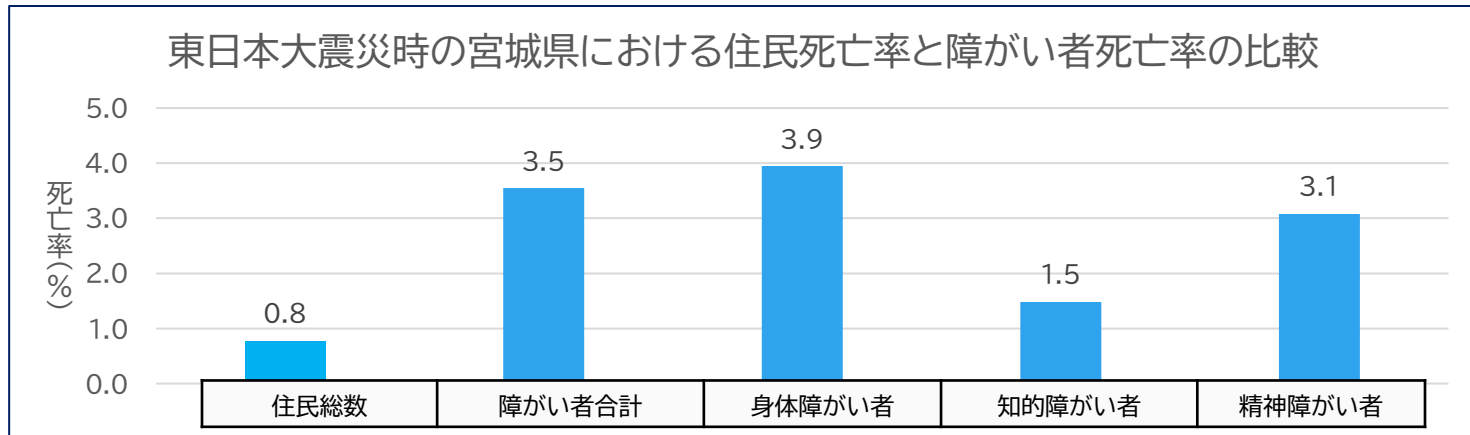
《けが》

東日本大震災 2011.3.11(金) 14:46

発生日時	2011(平成23)年 3月11日(金) 14時46分
震源など	三陸沖 深さ24km 震源域 南北約450km 東西約200km 東南東に24m移動 最大約3m隆起
地震の規模	モーメントマグニチュード Mw 9.0
震度7	宮城県北部
震度6強	宮城県南部・中部、福島県中通り・浜通り、茨城県北部・南部、 栃木県北部・南部
震度6弱	岩手県沿岸南部・内陸北部・内陸南部、福島県会津、群馬県南部、 埼玉県南部、千葉県北西部
余震(10年間)	震度6強 3回、震度6弱 3回、震度5強17回、震度5弱4回
津波(最大津波高)	岩手県宮古市付近 最大遡上高 約40m
死者・行方不明者	死者 19,729人(内、震災関連死 3,767人) 行方不明 2,559人
住家被害	全壊 121,996戸 半壊 282,941戸 一部損壊 748,461戸
避難者(最大)	震災後3日目(3月14日)には最大約468,000人の避難者 令和2年3月10日時点での避難者数 47,737人

災害に対する障がい特性・地域特性の弱さ

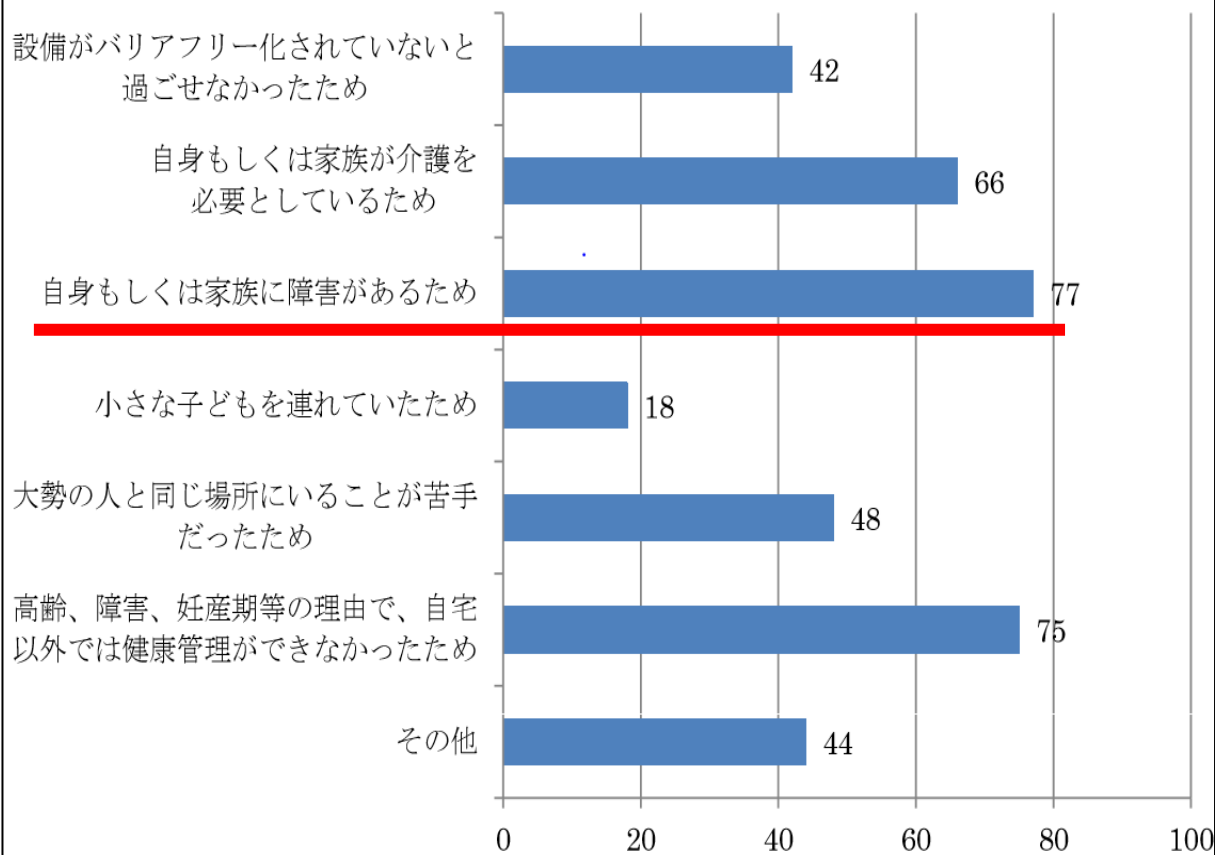
大震災と障がい者 高い死亡率の背景にあった弱さとは



出典:JDF日本障がいフォーラム調査資料より抜粋作成

障がい者・高齢者の避難所滞在は難しかった！

自宅に滞在していた理由



・東日本大震災の現場で障がい者たちは、**大勢の人がごった返す一般の避難所**に避難できなかった。

・一旦避難しても、**いくつも違う避難所へ移動、滞在**するケースがあった。

・バリアフリーではなかったり、障がいについて詳しく知ってもらえないので、できる事できないこと、困っていることなどわかってもらえず、**自宅や車中に無理やり避難**しなければならなかった。

出典：避難に関する総合的対策の推進に関する 実態調査結果報告書(平成25年)より抜粋作成

※避難支援が必要だったと回答した方 783 人のうち自宅の生活で何らかの支障があった方 217 人が回答対象

誰が逃げろと伝えたか？

- 第1位 101人 家族・同居者
- 第2位 97人 近所、友人
- 第3位 74人 福祉関係者
- 第4位 34人 テレビやラジオ
- 第5位 30人 警察・消防(団を含む)

※回答は「その他」を除く

内閣府「避難に関する総合的対策の推進に関する実態調査結果報告書」(東日本大震災時、避難支援が必要だと回答した783人中、315人を対象、複数回答あり)2013年

誰が逃げるのを支援したか？

- 第1位 85人 家族・同居者
- 第2位 60人 近所、友人
- 第3位 53人 福祉関係者
- 第4位 11人 消防(団を含む)

※「その他」を除く

内閣府「避難に関する総合的対策の推進に関する実態調査結果報告書」(東日本大震災時、避難支援が必要だと回答した783人中、避難時に支援者がいた197人を対象、複数回答あり)2013年

男子高校生の母親と面談 相馬市で津波で死亡 療育手帳B

出典:「あと少しの支援があれば」中村雅彦著

卒業式を1週間後に控えた3月11日に地震は来た。軽度の知的障がいがあったが、宮城県の職業訓練校に合格し、寮に入ることも決まっていた。母親は、息子の好きなパソコンを活かして就職させたいと思っていた。

家に帰った直後に津波は来た。金曜日は授業が5時間で、午後2時過ぎにはバスに乗って帰ることになっていた。バスの乗車中に地震が来た。3時を少し回ったところに、「いつものように降りた」とバスの運転手が言っていた。見つかった遺体は私服を着ていた。いつも制服から着替えた後にパソコンを開けていたが、パソコンはケースに入ったままだったので、着替えた直後に津波が来たと思われる。家には祖母がいた。祖母は地震直後、家の外に出た時、近所の人に避難しようと声をかけられたのだが、「家の中を片づける」と言って中に戻ったらしい。「津波は大丈夫だ」とも言っていたようだ。 中略

高校生の息子は自分で行動できる子だったものの、津波を予想して避難するほどの判断力はなく、祖母の「大丈夫」という言葉でそのまま2階にいたのではないかと思う。**誰かに「逃げろ」と言って欲しかった。**そして、うちのような子どもは何でもできるように見える子なのに、そうではない子どもだったということを皆さんに伝えてほしい。

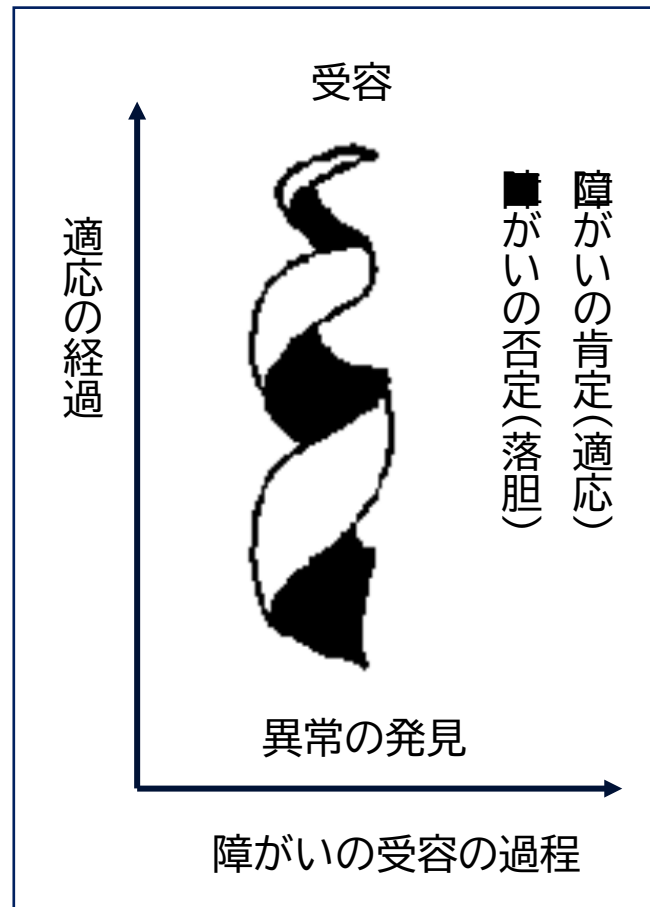
障がい者を周囲と分かち合うことの困難さ 本人の課題・地域の課題

東日本大震災の現場で「あと少しの支援があれば」中村雅彦(2012)

- 在宅の障がい児者を高齢者が世話をしている家庭も多かった。残念なことに、高齢者の判断が遅れ、ともに逃げ遅れた事例がいくつもあった。
- 自閉症の子どもがいることを近所の方が前から知っていたので、支援に駆け付け、一緒に避難して助かった
- 多くの被災地を回った経験からは、残念なことに障がい者にとって地域の助け合いは重要だが、必ずしもうまく行われていないと思う

平成30年西日本豪雨災害 倉敷市真備町
「NHKニュースウォッチ9 平成30年10月5日放送」

- 知的障がいのある親子は福祉サービスを受けていたが、地域とのつながりが希薄で、また、「行ったことのない所にはひとりで行けない」という障がい由来の理由で、地域の避難場所へ自分たちだけで緊急避難ができず亡くなった。



親の障がいの認識と受容に関する考察
受容の段階説と慢性的悲哀;中田(1995)

東日本大震災 死者の教訓

○高齢が約6割、障がい者死亡率2倍

→体力がない、地域とのつながりが弱い

⇒個別ひなん計画で近所や福祉とのつながり

○自治体職員288名(出典:地方公務員災害補償基金2019年)

消防団員254名(出典:消防団員等公務災害補償等共済基金)

民生委員56名(出典:内閣府 災害時要援護者の避難支援に関する検討会資料2012)

福祉施設職員173名(出典:厚労省老健局 第3回災害医療等のあり方に関する検討会)

学校関係者38名(岩手・宮城・福島)(出典:内閣府東日本大震災第208報)

→守り手、支援者の危機管理能力が弱い

⇒個別ひなん計画で支援者の危機管理能力向上

○3,774名の震災関連死(R3.3.31復興庁資料)

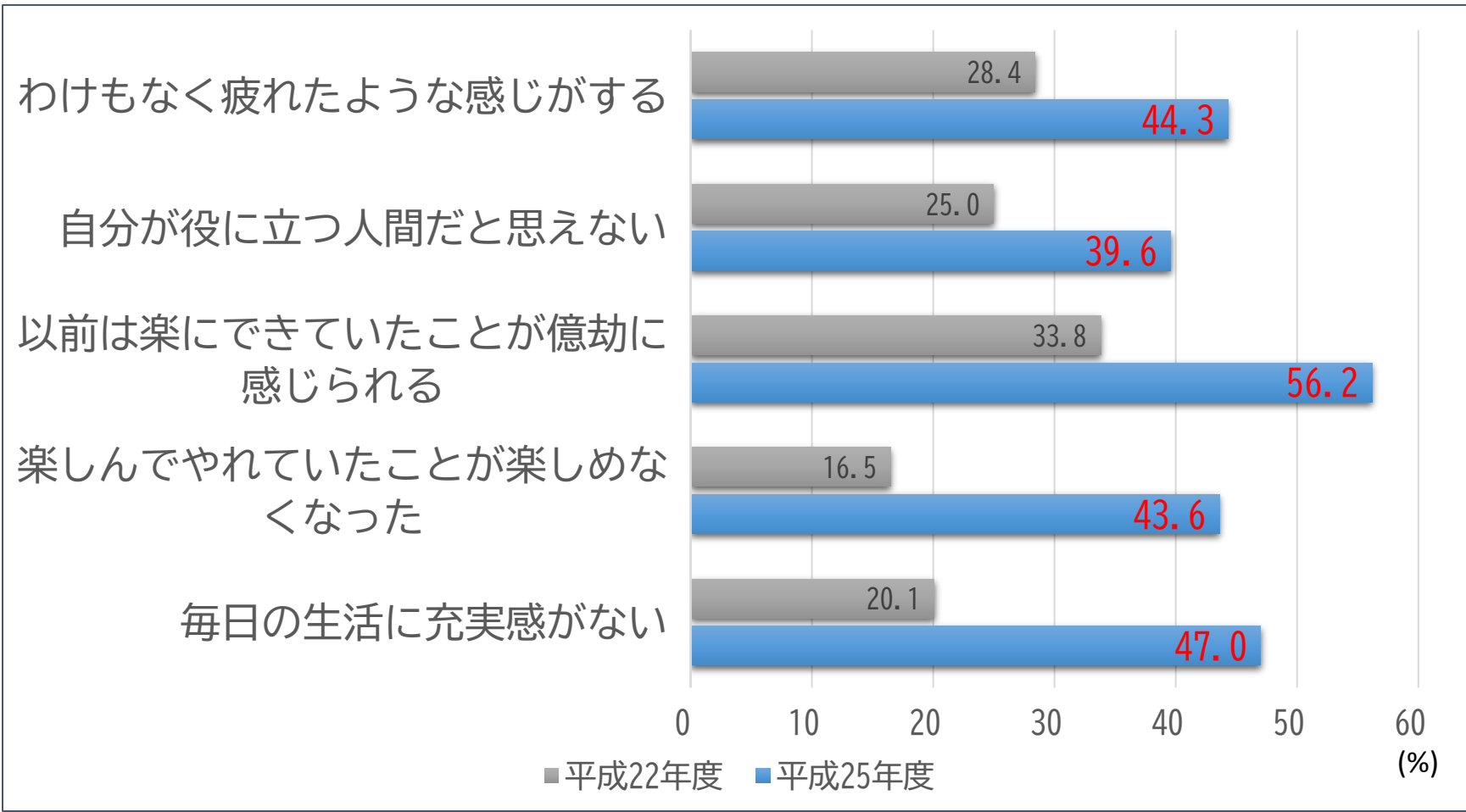
→89%が66歳以上、移動や避難所で衰弱

⇒福祉施設BCP、福祉避難所が必要

長期の避難生活が与える影響

「うつ」症状の悪化 平成22年／平成25年における比較

※データ比較の対象者はいずれも65歳以上で要介護度2以下



出典：福島県における要介護認定者増の要因分析による必要な支援のあり方に関する調査委研究事業報告書(平成27年3月 福島大学)

【無断複製厳禁】 一般社団法人福祉防災コミュニティ協会

熊本地震震災関連死 死亡時の生活環境区分

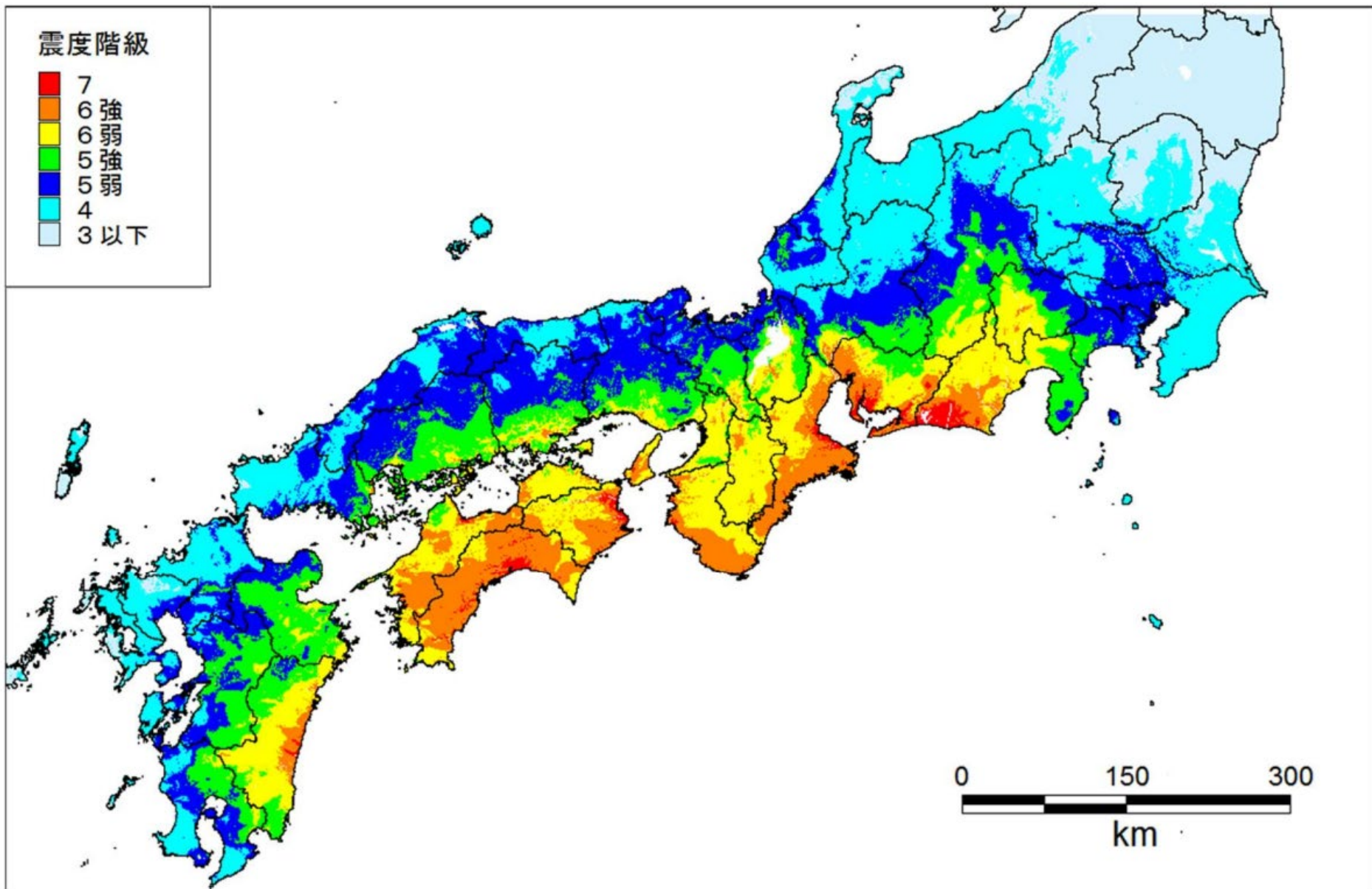
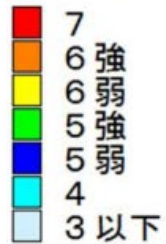
出典:熊本地震の発災4か月以降の復旧・復興の取り組みに関する検証報告書

生活環境	人数	割合
発災時にいた場所及びその周辺	12	5.5%
避難所等への移動中	0	0.0%
避難所滞在中	10	4.6%
仮設住宅滞在中	1	0.5%
民間賃貸住宅・公営住宅等滞在中	0	0.0%
親戚や知人の家に滞在中	8	3.7%
発災前と同じ居場所に滞在中の場合【自宅等】	81	37.2%
発災前と同じ居場所に滞在中の場合【病院】	27	12.4%
発災前と同じ居場所に滞在中の場合【介護施設】	17	7.8%
入院又は入所後1か月以上経過し亡くなった場合【病院】	58	26.6%
入院又は入所後1か月以上経過しなくなった場合【介護施設等】	3	1.4%
その他・不明	1	0.5%
合計	218	

南海トラフ巨大地震被害の想定(内閣府 2013)

陸側ケースの深度分布

震度階級



プレート境界の地震と内陸部の直下型地震

【地震の活動期】

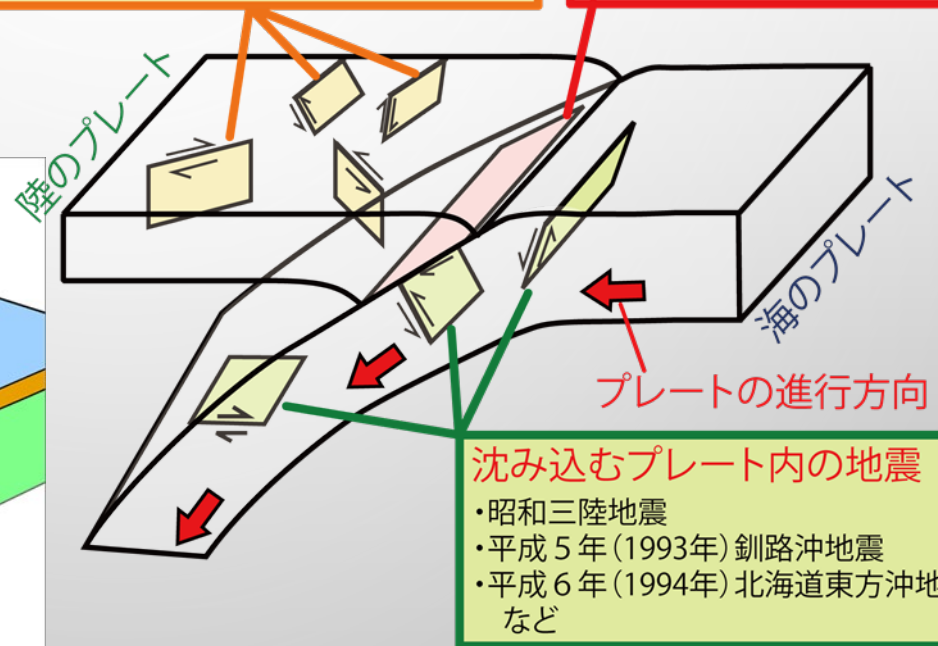
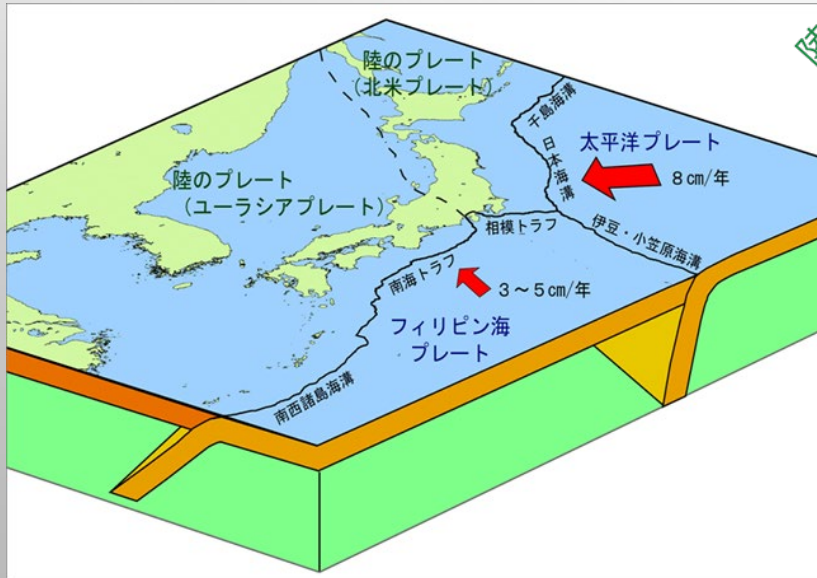
- ・プレート同士の歪が溜まると内陸部での地震が増える
- ・プレート境界地震の前後に、火山噴火(富士山、阿蘇山など)が起こる場合が多い

陸域の浅い地震

- ・平成7年(1995年)兵庫県南部地震
- ・平成16年(2004年)新潟県中越地震
- ・平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震
- ・平成28年(2016年)熊本地震など

プレート境界の地震

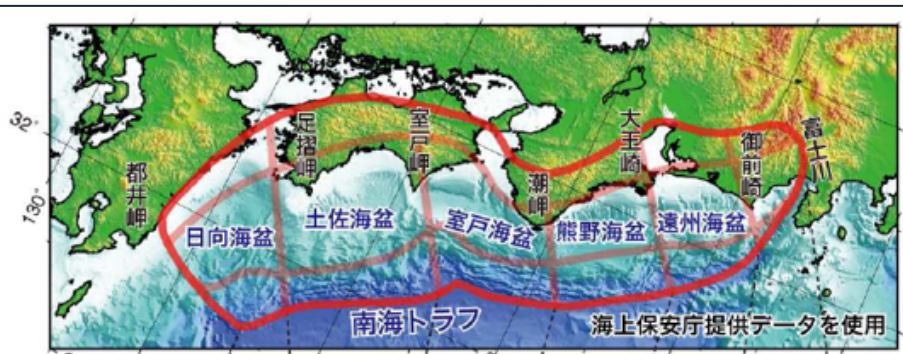
- ・南海地震
- ・東南海地震
- ・平成15年(2003年)十勝沖地震
- ・平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震 など



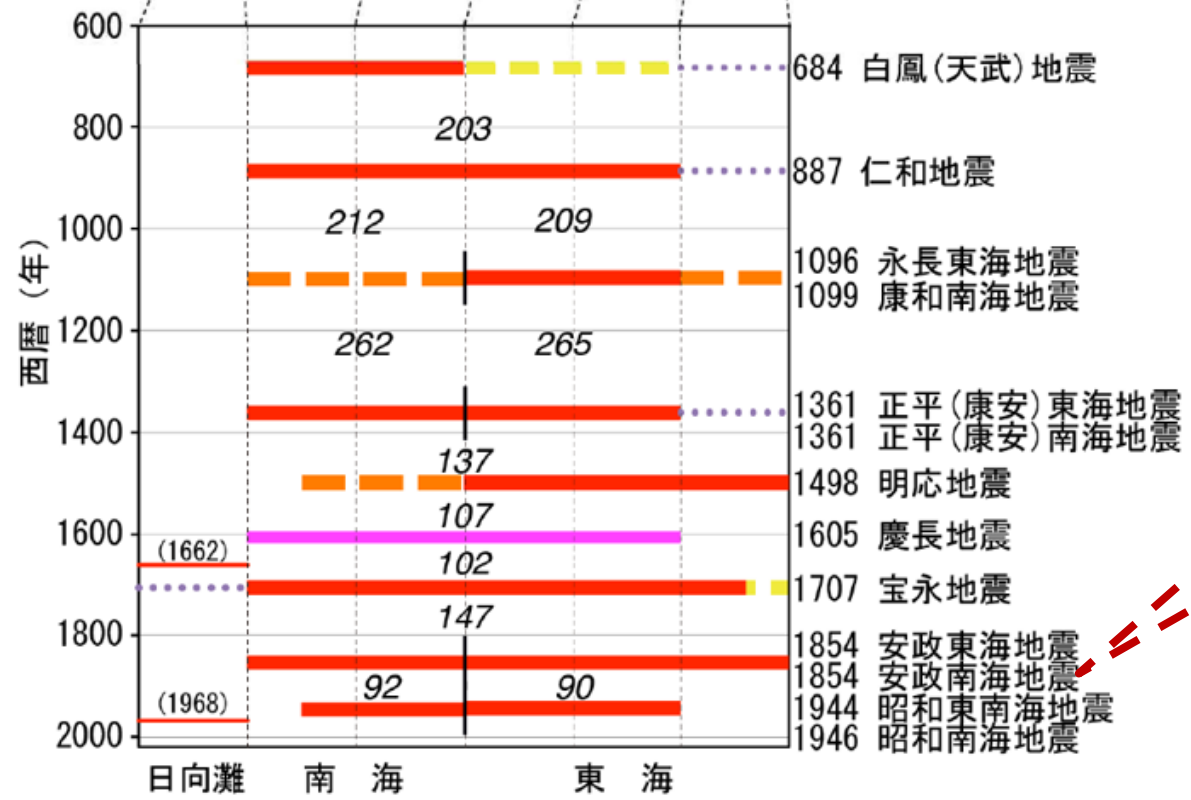
沈み込むプレート内の地震

- ・昭和三陸地震
- ・平成5年(1993年)釧路沖地震
- ・平成6年(1994年)北海道東方沖地震など

過去に発生した南海トラフ地震



- 確実な震源域
- 確実視されている震源域
- 可能性のある震源域
- ⋯ 説がある震源域
- 津波地震の可能性が高い地震
- 日向灘のプレート間地震(M7クラス)

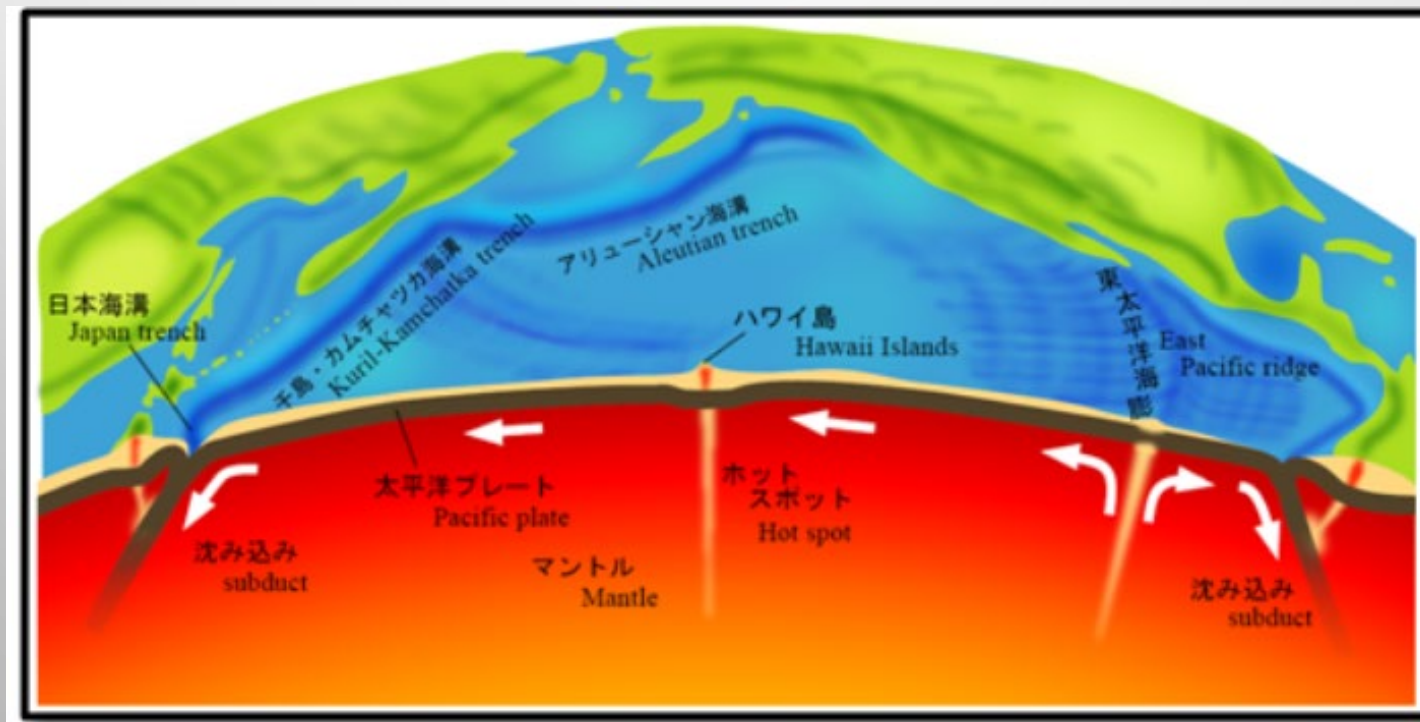


・およそ90年から150年の周期で発生
 ・1946年の昭和南海地震から既に77年が経過
 ・今後30年の発生確率は70%~80%

気象庁ホームページより
 抜粋作成

南海トラフ地震が怖い理由

- プレート移動は止められず、地震には津波が伴う
 - 関東～九州まで広い範囲が被災し、支援が分散される
 - 太平洋沿岸部から内陸部への移動ルートが少ない
 - 住宅耐震、木造密集地解消が進まない
 - 沿岸部の病院、学校、福祉施設の移転が進まない、など。
- **学校ベースの迅速な広域避難計画と疎開計画が必要**



「重ねるハザードマップ」を検索

重ねるハザードマップ

例：茨城県つくば市北郷1 / 国土地理院

選択中の情報

災害種別で選択

- 洪水・内水 (想定最大規模)
- 土砂災害
- 高潮 (想定最大規模)
- 津波 (想定最大規模)
- 道路防災情報
- 地形分類

掲載データに関する留意事項

すべての情報から選択

選択情報のリセット

表示中の情報はありません

検索窓に住所を入れる

重ねるハザードマップ

例：茨城県つくば市北郷1 / 国土地理院

選択中の情報

災害種別で選択

- 洪水・内水 (想定最大規模)
- 土砂災害
- 高潮 (想定最大規模)
- 津波 (想定最大規模)
- 道路防災情報
- 地形分類

掲載データに関する留意事項

すべての情報から選択

選択情報のリセット

表示中の情報はありません

正常化の偏見

「自分は大丈夫！」

・・自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過小評価してしまう人間の特性

ex)逃げない非常ベル

・・・初着のリスク情報の無視

大地震発生直後、あなたは家族と
自宅にいます。何をしますか？

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

(新)福祉避難所ガイドライン (2021年5月)

- 市町村は、災害が発生し又は発生のおそれがある場合(災害時)で、高齢者等避難が発令された場合などには、指定福祉避難所を開設する。

⇒福祉避難所への直接避難

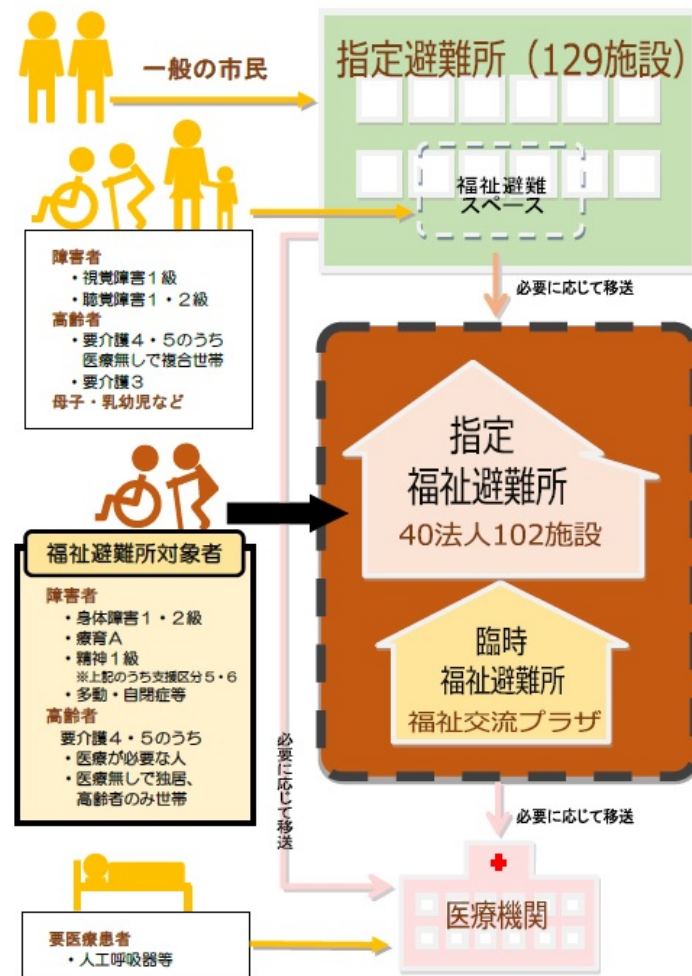
- また、市町村は、災害が発生し又は発生のおそれがある場合で、一般の避難所に避難してきた者で福祉避難所の対象となる者がおり、福祉避難所の開設が必要と判断する場合は、福祉避難所の施設管理者に開設を要請する。

上越市の取組み

出典：福祉避難所の確保・運営ガイドライン(令和3年改訂)資料編／
福祉避難所の対象者と避難方法(上越市ホームページ)

- あらかじめ市の聞き取り調査を終えて、避難する福祉避難所が指定されている人は、自宅から**直接避難**
- 福祉避難所が指定されていない人は、まずは近くの**指定避難所内の福祉避難スペース**を利用
- 要医療患者(人口呼吸器等)は**病院へ災害入院**
- 必要に応じて**移送**を想定

《避難のイメージ》



避難行動要支援者の 避難行動支援に関する取組指針

2013(H25)年8月(2021:R3年5月改定)
内閣府(防災担当)

- 令和3年の改正災対法においては、個別ひなん計画の作成について市町村の努力義務という形で規定された。
⇒要支援者だけでなく支援者の命も守る
- 優先度が高いと市町村が判断した者について、地域の実情を踏まえながら、改正法施行後からおおむね5年程度で取り組んでいただきたい。

令和元年台風第19号等を踏まえた高齢者等の避難の
在り方について(中間とりまとめ(2020年10月28日公表))

個別計画の重要ポイント

(個別計画の策定に係る体制)

介護支援専門員や相談支援専門員は、避難行動要
支援者のうち介護保険サービス等の利用者につい
て、日頃からケアプラン等の作成を通じて、避難行
動要支援者本人の状況等をよく把握しており、信頼
関係も期待できることから、個別計画策定の業務
に、福祉専門職の参画を得ることが極めて重要で
あり、その手法について最終とりまとめに向けて検
討する必要がある。

⇒介護、障がい事業所のBCPにも必要！

避難する時にはこんなに多くの荷物が

車両でしか避難できない事情の人がいます。小さなお子さんがある家庭、障がいのある人、病気で機械による生命維持が必要な人たちです。



「避難の時に病院へ持って行った機材や荷物」

北海道胆振東部地震(2018年9月6日)
出典:バクバクの会北海道支部幹事 清水氏のスライドより抜粋作成

これらをつなぐコンセント、体温調節のための電気毛布なども必要！
付き添う家族の荷物が持ち出せない…

機材の重さと消費電力

機材	重さ	消費電力
人工呼吸器	5.5kg	210w
吸引機一式	5.5kg	150w
加温加湿器	2kg	230w
カフアシスト	5kg	100~240w
吸入器	2.3kg	98~115w
栄養ポンプ	1kg	10w
在宅酸素濃縮器	12.5kg	250w

近年頻発する豪雨災害における高齢者等への被害の集中

出典：内閣府「2021年3月5日：高齢者・障害者等の個別ひなん計画に関する 防災と福祉の連携について」

●平成30年7月豪雨

愛媛県、岡山県、広島県の死者数のうち、60歳以上の死者数の割合

→約70% (131人/199人) (高齢者の死者数/全体死者数)

(うち市区町村別死者数最大の倉敷市真備町における70歳以上の割合
約80% (45人/51人))

●令和元年台風第19号

全体の死者数のうち、65歳以上の死者数の割合

→約65% (55人/84人)

●令和2年7月豪雨

全体の死者数のうち、65歳以上の死者数の割合

→約79% (63人/80人)

(うち熊本県 約85% (55人/65人))

注：本資料中に記載している死者数等の数値は、2020年12月24日に公表された「令和元年台風第19号等を踏まえた高齢者等の避難のあり方について（最終とりまとめ）」本文中に記載されているものであり、最新値とは異なる可能性があります。

個別ひなん計画（吹田市）：避難行動

吹田市

個別避難計画

災害時要援護者名簿に登録されていない方は、吹田市に提出する必要はありません。各ご家庭で保管し、災害時の対策としてご利用ください。

記入日	R5 年 4 月 1 日		
フリガナ 氏名 (本人)	スイタ タロウ 吹田 太郎	住所	吹田市 泉町1-3-40
※西暦で記入			上記が住民票に記載の住所と異なる場合は <input checked="" type="checkbox"/> → <input type="checkbox"/>
生年月日	1945 年 1 月 1 日 (78 歳)	連絡先	携帯電話 000-1234-5678

避難シート 1

安全な場所まで避難する際の行動を整理するための設問になります。あてはまる番号に○をつけ、記入が必要な場合は、記入欄に記入ください。

1 災害時にどこへ避難しますか？ 避難場所は、第一候補と第二候補の2案を想定してください。

洪水 土砂災害 地震	避難場所 (第一候補)	いずみの園公園(メイシアター)
	避難場所 (第二候補)	総合福祉会館

2 いつ避難しますか？

洪水 土砂災害	① 警戒レベル3(高齢者等避難)が発令されたら、一緒に避難する人と連絡を取り合い避難開始 ② その他()
地震	① 地震の揺れが治まり、安全確認の上、一緒に避難する人と連絡を取り合い避難開始 ② その他()

3 自宅の玄関まで移動することはできますか？

玄関まで	1 自力でできる	2 家族と一緒にできる	③ 支援者と一緒ならできる	4 わからない
------	----------	-------------	---------------	---------

4 避難場所までどうやって避難しますか？また、どのような支援が必要ですか？

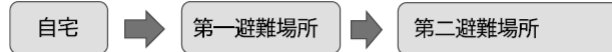
自宅から 第一避難場所まで	① 徒歩 2 車いす 3 車 4 その他()
	手伝ってほしいこと 杖をついて荷物を持っての移動のため手を貸してほしい
上記から 第二避難場所まで	① 徒歩 2 車いす 3 車 4 その他()
	手伝ってほしいこと 距離があり坂道のためできれば車いすに乗って押してほしい

5 一緒に逃げる人、支援してくれる人 ※ 支援者の方の了承を得た上で、氏名等を記入するようにしてください。

自宅から 第一避難場所まで 【避難】	① 自力で	3 支援してくれる人		
		氏名	関係	住所・連絡先
	2 家族と一緒に	①		
上記から 第二避難場所まで 【避難】	① 自力で	3 支援してくれる人		
		氏名	関係	住所・連絡先
	2 家族と一緒に	① 役所 吾郎	知人	吹田市泉町2-29-1

避難シート 2

6 避難経路図（自宅から避難先までの経路がわかるように記載ください。）



■地図、図面等を貼付していただいても結構です。



必ず持ち出す物

1 個別避難計画	7
2 非常持ち出し袋	8
3 貴重品（保険証・お薬手帳・印鑑・現金・身分証）	9
4 持病薬・サポーター・補聴器	10
5 携帯電話（充電器）・携帯ラジオ	11
6 家族の写真	12

個別ひなん計画（吹田市）：避難生活

生活支援シート1

避難を支援するにあたり、必要な支援等を整理するための設問になります。あてはまる番号に○をつけ、記入が必要な場合は、記入欄に記入してください。

1 避難支援に必要な情報

制度利用状況 (手帳や認定など)	1 身体障害者手帳1級・2級(部位) 2 精神障害者保健福祉手帳1級
	3 療育手帳A 4 要介護3~5(介護度 3・4・5)
屋内移動	⑤ その他 (要介護2)
	1 自力歩行可 ② 杖歩行 3 歩行に介助が必要 4 車いす 5 その他
情報伝達	留意事項
	1 通常会話可 2 見えづらい・見えない ③ 聞こえづらい・聞こえない 4 言葉で伝えづらい・伝えられない 5 その他 ()
医療的ケア	伝達方法 ① 通常会話可 2 手話 3 筆談 4 その他 ()
	① なし 2 人工呼吸器 3 人工透析 4 吸引 5 人工肛門 6 酸素療法 7 気管切開 8 その他 ()
特記事項	避難支援や避難生活上の留意点、伝達事項等(食物アレルギーや食事に関するを含む) 高血圧症の薬を服用していて、食事は柔らかいものやあっさりしたものしか食べられない。歩行は比較的しっかりしていますが、距離が長くなる場合は車いすで介助が必要です。認知も少しあります。
避難生活で必要な物	※医療機器、衛生用品、薬、お薬手帳、眼鏡、補聴器、バッテリーなど 1 なし ② あり (薬、サポーター、眼鏡、補聴器)

2 建物の構造

建物の構造 (避難基準)	① 木造(築35年) 2 鉄骨・鉄筋コンクリート(築 年) 3 不明・その他
	① 戸建て(2階建) 2 共同住宅・集合住宅(階建/ 階)

3 緊急連絡先 ※ 相手の方に了承いただいたうえで記入するようにしてください。

家族・親戚、友人等			
フリガナ氏名	スイト イチロウ 吹田 一郎	関係	長男
住所・連絡先	愛知県名古屋市長...番〇号 090-0000-0000		
フリガナ氏名		関係	
住所・連絡先			

4 個別避難計画作成者(本人・ご家族・地域支援組織・福祉事業所など)

個別避難計画作成者・事業所等			
フリガナ氏名	フジキ 福祉 はな子	関係又は所属	ケアプラセンター
住所・連絡先	吹田市泉町...番〇号 090-0000-0000		

生活支援シート2

5 避難生活で助けてほしいことをできるだけ具体的に簡潔に記入ください。

普段はひとりで生活していて面識のない方とのコミュニケーションが苦手、自力で生活することは可能であるが、思ったことがすぐに伝えられないため、避難所でのルールや情報などをこまめに伝えてほしいです。食事の介助などは必要ありませんが、嘔吐こと飲み込む力が弱くなっているため、また、血圧が高いので食事メニューに気を付けることが必要です。

体調面では杖があれば自力歩行は可能ですが、距離が長くなると車いすでの介助が必要です。体調は落ち着いており血圧を下げる薬を服用中。耳が聞こえづらくなっているため補聴器を使用しているが、認知が進んできているのか外していることに気が付いていないことが多い。避難所はメインアターがあるが福祉避難所である総合福祉会館を希望している。

※令和4年12月に一人で歩いて自宅に帰れなくなったことがあり、災害時は特に注意が必要だと思います。

6 避難生活のために準備するもの

持ち出し品	避難場所等に持ち出したり、停電時に自宅等で必要な物	数量	確認 ☑
1	○ 貴重品(保険証・お薬手帳・印鑑・現金・身分証)	一式	<input type="checkbox"/>
2	○ 持病薬・サポーター・補聴器	1	<input type="checkbox"/>
3	○ 携帯電話(充電器)・携帯ラジオ	1	<input type="checkbox"/>
4	非常食・飲料水	7日分	<input type="checkbox"/>
5	スリッパ・軍手・懐中電灯	1	<input type="checkbox"/>
6	簡易トイレ	7日分	<input type="checkbox"/>
7	紙おむつ	7日分	<input type="checkbox"/>
8	○ 家族の写真		<input type="checkbox"/>
9	カセットコンロ・ガスボンベ	1	<input type="checkbox"/>
10	タオル・毛布		<input type="checkbox"/>
11			<input type="checkbox"/>
12			<input type="checkbox"/>
13			<input type="checkbox"/>
14			<input type="checkbox"/>
15			<input type="checkbox"/>

個別ひなん計画をつくってみよう！

1. 自宅のハザードを知る（水害・耐震）
2. 避難生活に必要なことを知る
3. 自分に合った避難先を決める（複数）
4. 避難先までのルートを決める（複数）
5. 自分の避難ルールを決める
 - ・いつ避難を開始する？
 - ・どのような手段で避難する？
 - ・誰と避難する？
 - ・どのような支援が必要ですか？

個別の教育支援計画策定プロセス

計画の素案作り

対象児童生徒等の日頃の様子や特性、生活上の留意点などをよく知る保護者が、学習上の目標と生活に関する特性をまとめる。



評価の共有

一年間の学校と家庭での実践の結果を児童生徒等、保護者、担任教師により評価を行う。
目標達成できなかった項目など、次年度以降への引継ぎ事項となる。

特別支援教育

三者面談での確認

保護者が作成した素案をもとに、対象児童生徒等と保護者、担任教師による面談を行う。
担任教師は面談結果をもとに、指導計画を作成する。

学校と家庭での実践

指導計画をもとに、学習目標を達成するために、学校と家庭で強化における特別支援教育が実践される。



個別の教育支援計画

出典：大阪府立藤井寺支援学校 個別の教育支援計画フォームより抜粋作成

一般的な個別の教育支援計画の調査項目

基礎的 情報	<ul style="list-style-type: none">・診断名、成育歴、発達履歴、治療歴、就学歴、訓練履歴・保健情報(病歴、アレルギー、服薬情報など)・基本的な生活習慣(食事、衣服の着脱、排泄、生活)・言語コミュニケーション、社会性、対人関係・運動機能(歩く、手指操作)、認知理解(指示理解、文字、数など)・好きなこと、嫌いなこと、性格、<u>行動特性</u>、<u>配慮事項</u>等
教育支援 目標	<ul style="list-style-type: none">・長期(3年)の教育的ニーズと支援内容＋評価・関係機関との連携協力、福祉サービス、支援ネットワーク

個別の教育支援計画策定プロセス(防災教育)

- 継続的な更新
- 卒業後にも展開
(サポートブック)

計画の素案作り

対象児童生徒等の日頃の様子や特性、生活上の留意点などをよく知る保護者が、学習上の目標と生活に関する特性をまとめる。

- 自宅周辺ハザード確認
- 避難所(福祉避難所など)、避難ルートの確認
- 家庭と学校で防災上の課題の共有

評価の共有

一年間の学校と家庭での実践の結果を児童生徒等、保護者、担任教師により評価を行う。
目標達成できなかった項目など、次年度以降への引継ぎ事項となる。



三者面談での確認

保護者が作成した素案をもとに、対象児童生徒等と保護者、担任教師による面談を行う。
担任教師は面談結果をもとに、指導計画を作成する。

- 学校防災体制(福祉避難所)の整備(簡易ベッド、電源など)
- 支援者との関係構築
- 実動訓練、対応訓練等

学校と家庭での実践

指導計画をもとに、学習目標を達成するために、学校と家庭で強化における特別支援教育が実践される。

- 防災教育目標の設定
- 防災訓練メニュー設定
- 災害時支援内容の確認

薬の情報シート: 個別の教育支援計画を通じて作成

① 災害時等児童生徒引渡しカード (年度初めに作成して所持してもらう)

災害時引渡しカード 作成日: 年 月 日	
大阪府立藤井寺支援学校 Tel. 072-973-1313	
学部	年 組
児童生徒名前:	
引取人	
続柄	

入校証サイズ

② 教育支援計画様式1の写し(児童生徒引渡し確認票) 受付に配備

児童生徒基本調査票		記入年月日: (平成 年 月 日)	更新年月日: (平成 年 月 日)
児童生徒氏名	性別	生年月日	平成 年 月 日
保護者名	入学 転入学	年・月	平成 年 月 日
現住所	自宅電話番号		
緊急連絡先	① 電話番号	()-()-()	② 電話番号
	③ 電話番号	()-()-()	④ 電話番号
	⑤ 電話番号	()-()-()	⑥ 電話番号
	⑦ 電話番号	()-()-()	⑧ 電話番号
家族構成	氏名	続柄	備考
身体障害者手帳	<input type="checkbox"/> 判定 () 種 () 級 () 級	取得年月日	平成 年 月 日
療育手帳	<input type="checkbox"/> 判定 () 級 () 級	取得年月日	平成 年 月 日
児童生徒の教育歴 (保育園・幼稚園・認定前施設)			
年	月	施設	
年	月	施設	
年	月	施設	
年	月	施設	
災害時引取人	引取人名前	続柄	避難先
①			小学校地区
②			
③			避難所

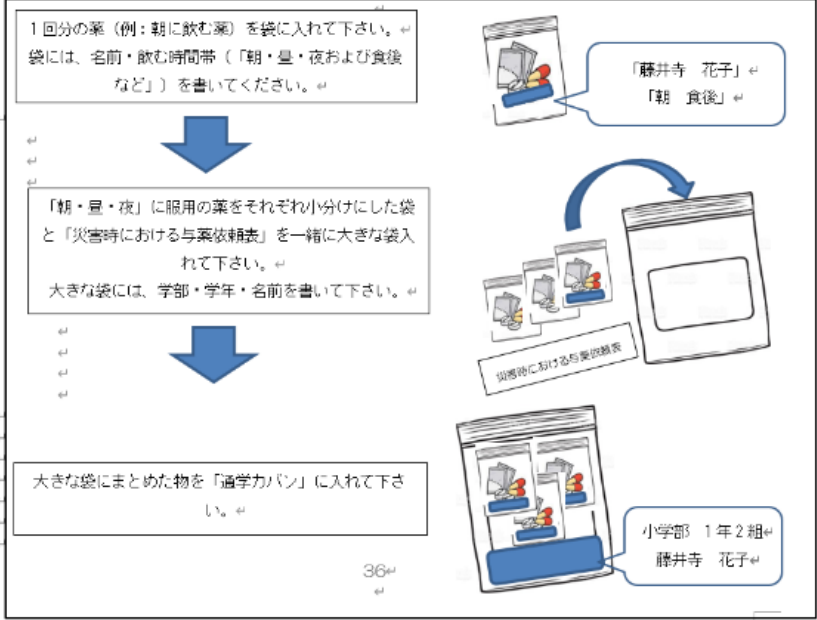
☆避難先は、3箇所程度想定してもらい。安否確認で利用できる。
 新生より、改訂版様式1を使用。
 それ以外の児童生徒については、メモで付け足す

この欄で確認をとる

③ 引き取り用児童生徒名簿(各学部用、学園用) 受付に配備

今年度	年度	災害時引取り用 生徒名簿				高等部				
学年	組	名前	フリガナ	性別	年齢	引渡し人名前	続柄	避難先	受付 日時	受付 数値
1	1	藤井 太郎	フジシ タロウ	男	15			自宅・避難所()	/	
	2	藤井 花子	フジシ ハナコ	女	15			自宅・避難所()	/	
	3							自宅・避難所()	/	
	4							自宅・避難所()	/	
	5							自宅・避難所()	/	
	6							自宅・避難所()	/	
	7							自宅・避難所()	/	
	8							自宅・避難所()	/	
	(特) ①							自宅・避難所()	/	
	(特) ②							自宅・避難所()	/	
担任		本校内引渡し人記入欄				全員引渡し完了したかチェック				

④ 薬の保管の仕方



特別支援BCPに規定し、運用

⑤ 災害時における与薬依頼書

平成30年度 災害時緊急与薬依頼表			
		フリガナ ()学部 ()年 名前()	
		保護者名()	
下記の通り、(災害等)緊急時において学校での与薬を依頼します。 ただし、緊急時における与薬依頼のため、下記与薬時間及び方法が変更される可能性もあります。			
	1学期 印	2学期 印	3学期 印
薬品名	与薬時間	飲ませ方	使用上の注意点 (混ぜてはいけないもの等)
朝	時 時		
	食前・食事中・食後 (その他)		
昼	時 時		
	食前・食事中・食後 (その他)		
夕	時 時		
	食前・食事中・食後 (その他)		
眼前	時 時		
	食前・食事中・食後 (その他)		
座薬	時 時		
	食前・食事中・食後 (その他)		
吸入	時 時		
	(その他)		
その他	頭痛時・発熱時 嘔吐予防 精神不安定時 吸入薬		
	(その他)		

⑥ 個人で準備するもの(保護者に依頼)

通学カバンの中に入れるもの

- ① SOSカード (通学用)
- ② 毎日のめ薬表 (1日分)
- ③ 防災用緊急与薬依頼表
- ④ 自給薬類に必要のもの

非常用持ち出し袋の中に入れるもの

- ① SOSカード (袋用)
- ② 非常食 (3食分)
- ③ 医薬品
- ④ その他

登校や下校の通学中に起こる災害に備えます。
ご協力をお願いします。

⑦ SOSカード(年度はじめに保護者に通学カバンと非常用持ち出し袋の2部作成依頼)

SOS 記入例

以下の内容に基いて通学用SOSカードを作成します。

緊急事態発生時に迅速に連絡がとれるよう、保護者に連絡先を記入してください。

緊急事態発生時に迅速に連絡がとれるよう、保護者に連絡先を記入してください。

緊急事態発生時に迅速に連絡がとれるよう、保護者に連絡先を記入してください。

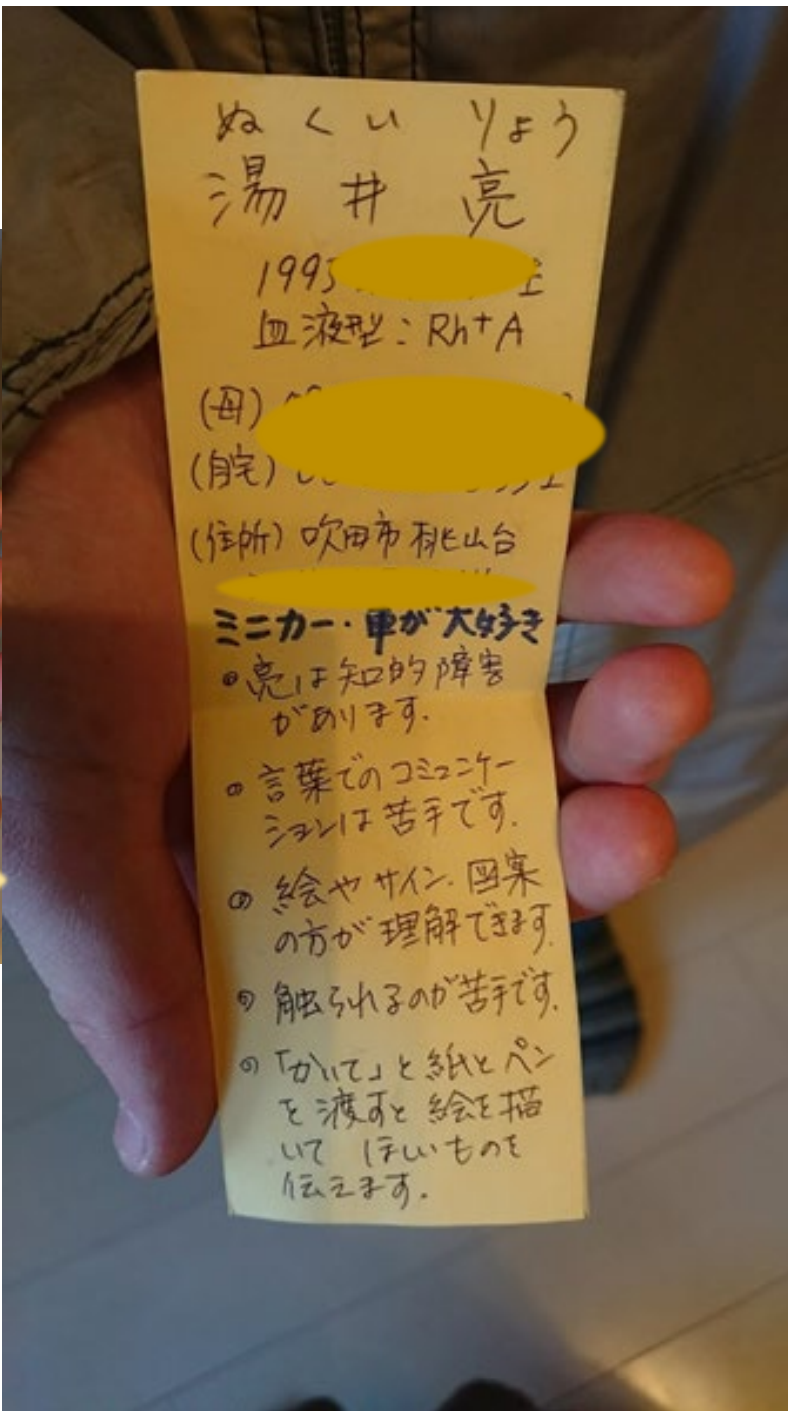
食前・食中・食後

食前・食中・食後の与薬時間、食事の有無、アレルギーの有無などを記入してください。

食前・食中・食後の与薬時間、食事の有無、アレルギーの有無などを記入してください。

食前・食中・食後の与薬時間、食事の有無、アレルギーの有無などを記入してください。

大切なことは、
支援が必要な人も
支援をする人も
一緒に助かること



亮の「SOSカード」
です。
何度かこのカードの
情報で連絡を頂くこ
とができました。

- ・名前
- ・保護者の連絡先
- ・住所
- ・血液型
- ・生年月日
- ・自閉症であること
- ・苦手なこと
- ・得意なこと
- ・好きなこと

いつも身に付けて、もしもに備える！

すずめ共同作業所SOSカード

避難の際に呼びかけ、お手伝いをお願いします

ゆき
さん！



いっしょに
逃げよう！

<どこへ？>

クンペル
屋上



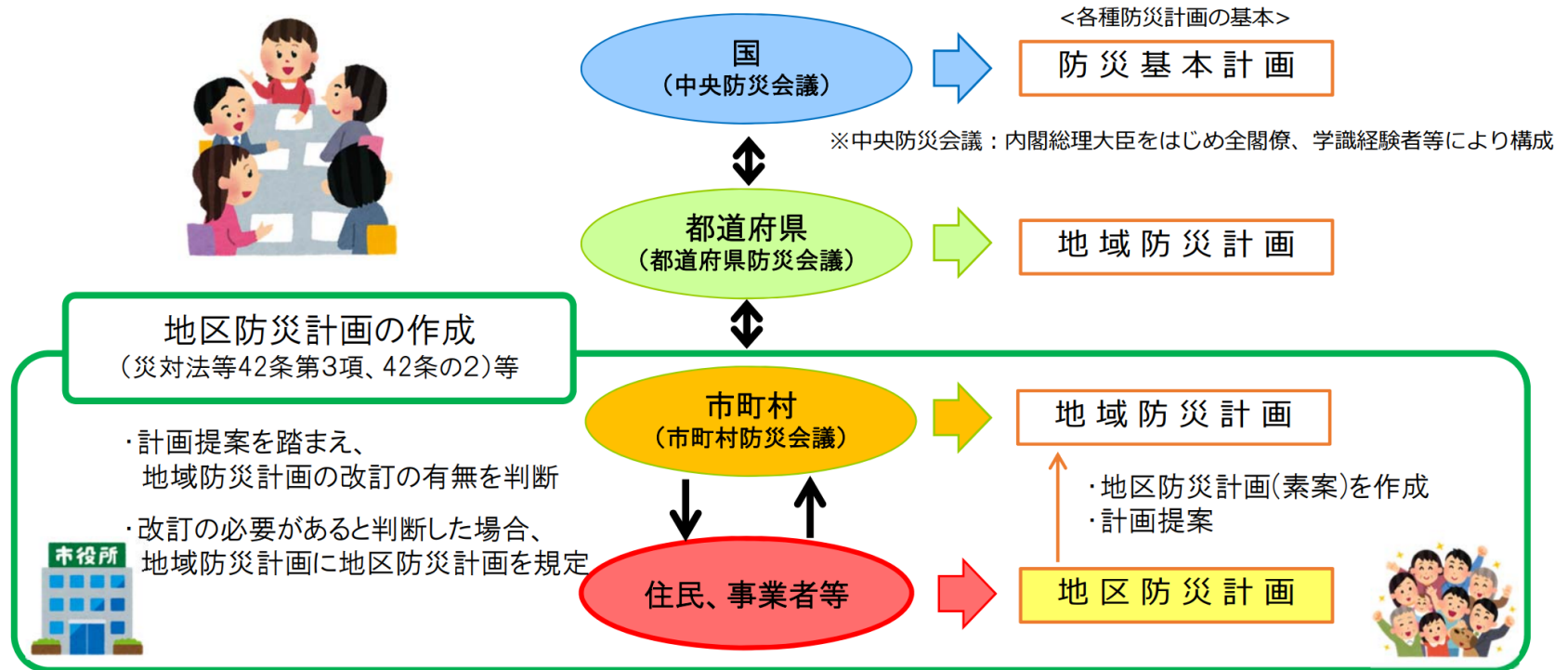
名前をよび手をつないで
ゆっくり歩いてください

<持っていくもの>

<注意> 足元が見えにくいのため
「段差があるよ」の声かけを
してください

みんなでつくる地区防災計画 ～「自助」「共助」による地域のローカルルール～

- ⇒ 地域住民が自発的に防災計画を作成する活動を応援するため、災害対策基本法が改正され、平成26年4月から「地区防災計画制度」がスタートしました。
- ⇒ これによって、地区居住者等が、地区防災計画(素案)を作成し、市町村地域防災計画に地区防災計画を定めるよう、市町村防災会議に提案できることとなりました。



福祉・医療的ケアを支えた避難支援：佐久穂町消防団の対応

出典：障がい者、高齢者の早期避難についての実践事例～長野県佐久穂町立老人介護施設 さやかの事例～（地域安全学会2020年度春季研究発表論文）

● 災害時住民支え合いマップ

- 各地区消防団員、区町会、民生委員等により、「地縁関係者の知りえる情報」で作られた名簿
- 支援内容によるランク分け（3ランク）
 - （青）：声かけで移動
 - （黄）：手を引いて移動
 - （赤）：担いで移動

● 消防団による全戸避難の呼びかけ

- 全町民への避難の呼びかけと避難支援

● 避難支援（車での搬送）

- 指定避難所への誘導、搬送
- 福祉避難所・病院への搬送は福祉車両（老健施設 さやか）に依頼

災害時住民支え合いマップとは・・・

災害時・緊急時に支援が必要な人に対して**いつ、だれが、どのように、**安否確認や避難行動の支援などをするのか考えるために行う、

- ① みんなで話し合うこと
- ② 話し合った結果を地図に書き込むこと
- ③ 必要な人を支援するための計画づくり

この3つを合わせて

「災害時住民支え合いマップ」といいます。

(以下では「マップ」と略称します。)



学習会の様子



地図を使った話し合い

完成したマップの一例



③ マップの対象者の区分けと支援方法(例)

色分け	支援の形態	対象者
	災害時・緊急時のほか、日常生活でも支援が必要	日常的に福祉サービスや介助を受けている人や、危険の判断ができない人、情報を得られない人
	災害時・緊急時に支援が必要	ひとり暮らし高齢者(日中ひとり暮らし高齢者)や障害者などで、支援があれば避難可能な人
	災害時・緊急時に、声かけや安否確認が必要	日常生活は自立しているが、災害時・緊急時には配慮したい人
		区に加入していない人(アパート等で自立の度合いが不明な人など)
	空家・別荘など	
	声かけ・安否確認など助ける側として協力ができる人	

各家庭に配布する調査票の内容

※この調査票には、居住している人全員を記入してください

氏名(世帯主)		住所		階層名
氏名(世帯主)		住所		階層名
家族No	該当へ〇印(名前の記入も可)		年齢層	
	男性	女性	A~Eの中から選択	
1			必要な支援(助けてほしいこと)の選択(〇印)	
2			声かけ・安否確認などの協力ができる人(OB)	

調査票に記入を依頼

マップに色別で表示

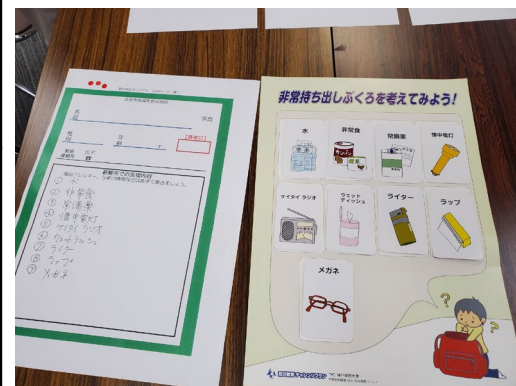


5面の注意事項等をご記入ください。

活動実施内容(令和2年度・3年度)

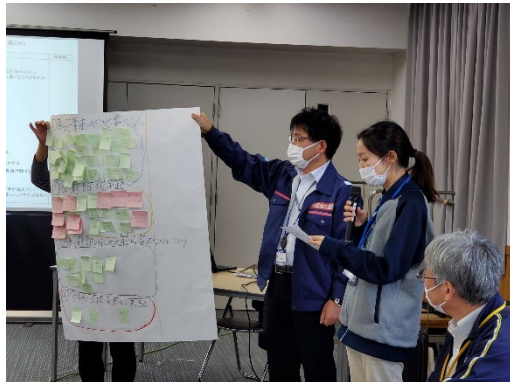
避難生活を考えるワークショップの様子
湯井撮影

対象地区	岡山県倉敷市真備町箭田地区 箭田まちづくり推進協議会				
参加主体	学区役員、自治会役員、民生委員、真備支所、国交省、障がい者・高齢者施設、NPO、幼稚園、小学校、中学校、高校、特別支援学校、当事者団体ほか				
事業内容	ヘルプカードで支えあいの箭田家づくり 全住民対象の避難行動計画カード作成				
実施期間	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="241 753 405 1053"> 1年目 </td> <td data-bbox="405 753 1365 1053"> 顔合わせ 7月15日(水)13:30~14:40 1回目 7月28日(水)地震水害基礎知識WS 2回目 9月16日(水)避難行動についてWS 3回目 11月26日(木)避難生活についてWS 4回目 12月7日(月)ヘルプカードと運用ルールWS </td> </tr> <tr> <td data-bbox="241 1053 405 1365"> 2年目 </td> <td data-bbox="405 1053 1365 1365"> 1回目 10月4日(月)ヘルプカードの活用WS 2回目 11月1日(月)地図を使ったWS 3回目 11月30日(火)地図を使ったWS 4回目 12月21日(火)地図を使ったWS 5回目 3月14日(月)次年度の実動訓練WS </td> </tr> </table>	1年目	顔合わせ 7月15日(水)13:30~14:40 1回目 7月28日(水)地震水害基礎知識WS 2回目 9月16日(水)避難行動についてWS 3回目 11月26日(木)避難生活についてWS 4回目 12月7日(月)ヘルプカードと運用ルールWS	2年目	1回目 10月4日(月)ヘルプカードの活用WS 2回目 11月1日(月)地図を使ったWS 3回目 11月30日(火)地図を使ったWS 4回目 12月21日(火)地図を使ったWS 5回目 3月14日(月)次年度の実動訓練WS
1年目	顔合わせ 7月15日(水)13:30~14:40 1回目 7月28日(水)地震水害基礎知識WS 2回目 9月16日(水)避難行動についてWS 3回目 11月26日(木)避難生活についてWS 4回目 12月7日(月)ヘルプカードと運用ルールWS				
2年目	1回目 10月4日(月)ヘルプカードの活用WS 2回目 11月1日(月)地図を使ったWS 3回目 11月30日(火)地図を使ったWS 4回目 12月21日(火)地図を使ったWS 5回目 3月14日(月)次年度の実動訓練WS				



活動実施内容(令和4年度)

避難生活を考えるワークショップの様子
湯井撮影



対象地区	岡山県倉敷市真備町箭田地区 箭田まちづくり推進協議会
参加主体	学区役員、自治会役員、民生委員、真備支所、国交省、障がい者・高齢者施設、NPO、幼稚園、小学校、中学校、高校、特別支援学校、当事者団体ほか
事業内容	ヘルプカードで支えあいの箭田家づくり 全住民対象の避難行動計画カード更新
実施期間	① 8月23日(火)車での避難行動と避難生活を整えるカード更新の説明(今年度の目標共有)
	② 9月27日(火)お困りごとを持った自分をイメージするWS(車避難の支援と受援の具体を考える)
	③ 10月18日(火)R3年度作成の災害情報地図を使った車避難の課題と対策を考えるWS
	④ 11月29日(火)ヘルプカード更新のための箭田家のルール条文づくり
	⑤ 12月27日(火)「みんなで助かる！」地震編と車避難、一時集合場所とを更新したカードの確認

在宅被災生活のために用意したいもの(トイレ編)

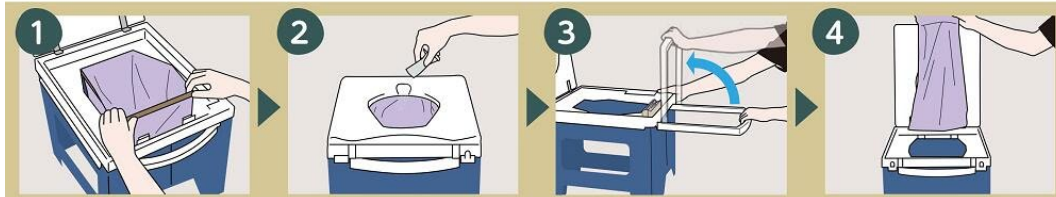
自宅のトイレを有効活用する方法とポータブルタイプの災害用トイレの備蓄を進めましょう。

- ・固形材+便袋やシートタイプ
- ・自動ポータブルトイレ

少なくとも1週間分は準備しておきましょう！



 wrappon



吸水 シート一体型

簡単! 袋を開くだけ

処理 は可燃ごみでOK

使用方法
8カ国語表記に
リニューアル!!

災害用トイレ
サニタクリーンシリーズ
簡単トイレ(便袋)20枚入

災害用
トイレセット
10回分
1人/約2日分
日本製 10年保存

抗菌 消臭
スピード凝固 可燃ゴミ

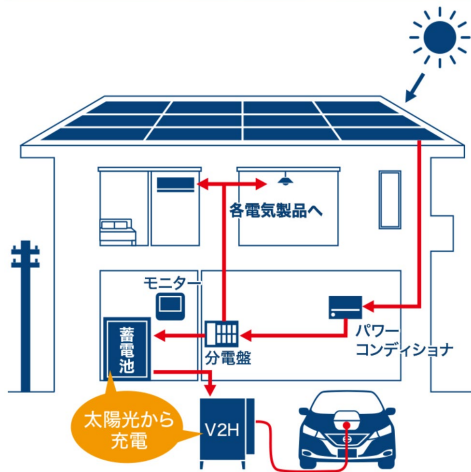
mini-10

災害用 抗菌 消臭 可燃
トイレセット
マイレット mini-10 10回分入り
持ち運び袋

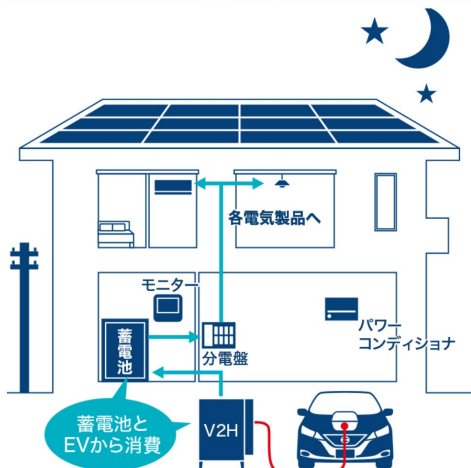
これからの停電対策

電源があれば守りつなげる、大切ないのちがあります

太陽光から充電



蓄電池と電気自動車から消費



➤ 電気自動車を上手に使う

- ・行政保有の電気自動車を災害時の福祉避難所に派遣し、電源として使用する
 - ・自動車メーカーの保有する店頭用車両を災害時に特別支援学校へ派遣し、電源として活用
- ※2020年度EV・PHV・FCV保有(国内)合計約29万台

➤ 自然エネルギー発電の活用

- ・学校やマンション、企業の屋上に太陽光発電パネルを設置し、災害時の電源として活用(日常は売電)
- ・まちづくりのなかで自然エネルギー活用をデザインする。

まずは「やってみる」

大きな災害が起きて電気、水、ガスが止まったら何に困るか、具体的に考えて想像して、まずは家族と話し合ってみましょう。在宅避難する時は、ハザードマップの確認、水、食料、トイレ、薬などと一緒に、電源の確保をお願いします！